

ソラシド エア(スカイネットアジア航空株式会社)の決算概観(収支)

5月30日に発表されたスカイネットアジア航空(SNA)の2013年3月期決算の収支を概観した。

※ 数値は同社発表のデータをもとに JAMR で一部加工したもの。
また分析の際は、国交省報道発表資料等を加味している。

新機材(B737-800)効果で過去最高益を達成

- ① 当期に新機材 B737-800(174 席)が 3 機増えて計 6 機となり、在来の B737-400(150 席)とほぼ半々の構成となった。単純平均すれば、平均席数は 162 席となる。
- ② 便数規模は前年並みであったが、コードシェアによる ANA への販売座席(推定で全体の 1/3 程度)を控除した自社の販売座席数は 8%増加した。
- ③ 旅客数はそれを大きく上回る+16%増となり、搭乗率は 63.2⇒67.4%と向上した。
営業収入(含コードシェア収入)の増加が+5%に留まっていることから、割引料金の拡大で平均旅客単価は低下したことが伺える。
- ④ 他方新機材効果(燃油効率の向上、整備費の減など)によって便当りの費用は前年並みに抑制され、結果的に供給席数増がほぼタダで賄えた勘定になっている。
- ⑤ 以上の結果、営業収入+5%増(+14 億円)に対して、営業費用はほぼ前年並み(+1 億円)に留まり、19 億円(利益率 6%)という過去最高益を達成した。
旧機材の早期退役に伴う特別損失を計上したものの、純利益も過去最高の 11 億円を実現した。
- ⑥ 1 便当りの平均的な姿を鳥瞰すると;
約 1/3 の座席を ANA に販売したあとの自社座席数は 104 席、これに 70 人の旅客が乗り搭乗率は 67%。収支トントンとなる B/E(みなしで推定)は、収入単価の低下で若干あがって 63%(66 人)になった。

便当りの収入は157万円、営業費用は147万円、従って営業利益は10万円。

- ⑦ 2013年度は、期首から羽田発着+3往復(熊本、鹿児島、大分各1)となり、6月からは神戸=沖縄線3往復が加わる。

《表1》 収支実績

| | H24.3 | H25.3 | 前年比較 | |
|-------------|--------|--------|-------|-----|
| | | | 差 | 率 |
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | % |
| 営業収益 | 29,226 | 30,655 | 1,429 | 105 |
| 営業費用 | 28,571 | 28,710 | 139 | 100 |
| 営業利益 | 655 | 1,945 | 1,290 | |
| (利益率) (%) | 2.2 | 6.3 | | |
| 営業外収支(為替損等) | -5 | -102 | -97 | |
| 経常利益 | 650 | 1,843 | 1,193 | |
| 特別損失・税金等 | -114 | -742 | -628 | |
| 当期純利益 | 536 | 1,101 | 565 | |

《表2》 収益性指標

| | H24.3 | H25.3 | 前年比較 | | |
|-----------|-------|--------|--------|-----|-----|
| | | | 差 | 率 | |
| 運航便数 | 便 | 19,332 | 19,504 | 172 | 101 |
| 1日の便数(片道) | 便 | 53 | 53 | | |
| 1便当り収入 | 千円 | 1,512 | 1,572 | 60 | 104 |
| 1便当り費用 | 千円 | 1,478 | 1,472 | -6 | 100 |
| 1便当り営業利益 | 千円 | 34 | 100 | 66 | |
| 座席数 | 千席 | 1,865 | 2,023 | 158 | 108 |
| 旅客数 | 千人 | 1,179 | 1,364 | 185 | 116 |
| 搭乗率 | % | 63.2 | 67.4 | 4.2 | |
| B/E | % | 61.8 | 63.2 | 1.4 | |
| 平均座席数 | 席 | 96 | 104 | 7 | |
| 平均旅客数 | 人 | 61 | 70 | 9 | |
| B/E旅客数 | 人 | 60 | 66 | 6 | |
| 利益旅客数 | 人 | 1 | 4 | 3 | |

以上(Y.A)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてを閲覧者ご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

当資料は、この資料の作者が信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、当研究所としての見解ではなく、また当研究所はその正当性を保証するものではありません。内容は予告なく変更することがありますので、予めご了承ください。また、当資料は著作物であり、著作権が保護されます。全文もしくは一部を転載される場合には出所を明記されるようお願いいたします。